

# News Letter



## 愛媛の次代の水産業を担う「宇和島水産高等学校」

愛媛県は宇和海と瀬戸内海に面し、獲る漁業、育てる漁業ともに盛んです。まだい、ぶり類、真珠などは全国有数の生産量となっていますが、漁業就業者の2割以上が70歳以上と高齢化が進み、担い手の減少が心配されています。

県立宇和島水産高等学校では、次代の愛媛の水産業を担う生徒の皆さんが、「水産食品科」、「水産増殖科」、「海洋技術科」で技術や知識を学んでいます。

また、2つの専攻科（漁業科・機関科、水産増殖科）があり、水産増殖科は全国で同校のみ設置されています。



大型実習船「えひめ丸」(第5代)

### 食のパイオニアを目指す「水産食品科」



じゃこてんを作るため、はらんぼをさばいている様子。



缶詰の実習風景。同校オリジナル商品も多数開発。

### 海と生物について学ぶ「水産増殖科」



国際的な環境教育プログラム「GLOBE（グローブ）」に参加し、水質などを測定。→

←養殖いかだでの実習風景。



### “船乗り”を目指す「海洋技術科」



大型実習船「えひめ丸」内での機関実習。航海実習も行う。



一級小型船舶操縦士の免状取得を目指し、小型実習船「つるしま」で訓練。

### 毎年大盛況の「水高祭」



本年も雨天の中、目当ての品を求めて大勢のお客さんが来校。



人気商品ベスト3

- ① 缶詰
- ② まぐろ
- ③ じゃこてん

同校では地域と連携しており、その一環として魚食教育に取り組んでいます。

「元気うわじまサポートバンク」（宇和島市が運用）に登録し、生徒達が保育園などで講師を務める体験講座、地域のイベントへの参加（魚拓体験やタッチングプールなど）、東京の親子組とNET回線を利用した魚料理教室など、多様な活動を行っています。

参加した子ども達から、「魚が好きになった」「家で魚を食べる機会が増えた」と嬉しい声が聞こえています。



平成13年にアメリカの原子力潜水艦との衝突により沈没した大型実習船えひめ丸の慰霊碑。

## 「佐礼谷(されだに)地域農地・水・環境保全会」が受賞

～平成23年度農地・水保全管理対策中国四国農政局長最優秀賞～

中国四国農政局では、「農地・水保全管理対策交付金」に取り組んでいる活動組織の意欲の高揚と本対策の推進を目的とし、地域協議会から推薦された地域ぐるみでの効果の高い共同活動を実践している活動組織に対し、平成20年度から表彰を行っています。

本年度は、平成20年6月に伊予市初の住民自治組織「住民自治されだに」を発足し、遊休農地の保全管理（イベント開催、学校給食への提供、特産品の開発など）を核とした地域活性化への取り組みを行っている「佐礼谷地域農地・水・環境保全会」が、中国四国農政局長最優秀賞を受賞されました。



表彰式は11月19日に岡山第2合同庁舎で開催。

## 「第2回農作業安全フォトコンテスト」受賞者決定



中国四国農政局長賞「田植えをおえて」

高齢化が進展する中で、毎年、約400名の死亡事故が発生するなど、農作業事故発生件数は年々増加しています。

中国四国農政局では「農作業事故撲滅キャンペーン」の一環として、昨年度から「農作業安全フォトコンテスト」を開催しています。

今回は、テーマを「農作業安全」とし、「農作業の合間にひとやすみ『ほっと一息』をうつつした写真」、「農作業を終えて家路につく写真」、「農作業安全に取り組んでいる写真」を募集したところ93点の応募があり、その中から中国四国農政局長賞は「田植えをおえて」を応募された乗松 賢二氏（松山市）に決定しました。

## 食料自給率と米粉について意見交換を行いました

～今治市で「消費者懇談会」開催～

松山地域センターでは、消費者との相互理解と信頼関係を築くため「消費者懇談会」を開催し、わかりやすく情報を提供し、行政に対するご意見を頂いております。

12月2日には、「米粉の活用と食料自給率向上について」をテーマに、ガス生活館ピポット今治（今治市）で消費者と意見交換を行いました。



今治市や西条市などから18名が参加。



「チョコとオレンジの米粉ケーキ」など愛媛県産米粉を使った2種類のお菓子作りに挑戦。

参加された方からは、「食料自給率と米粉について勉強になった」、「続けて開催して欲しい」、「米粉をもっと手軽に購入できる環境作りを」などの意見や要望が多数出されました。